

# PCRFリビルドレプリカセットのトラブルシューティング

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[トラブルシューティング](#)

[ステップ1：バックアップの検証。](#)

[ステップ2：レプリカセットの再構築。](#)

[ステップ3：バックアップ後のレプリカセットからデータベースをリストアします。](#)

[ステップ4：復元を検証します。](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Policy and Charging Rules Function(PCRF)mongoレプリカセットを再構築するために必要な手順について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Openstack
- CPS
- 影響を受けるインスタンスが導入されたコンピューティングが利用可能になりました。
- コンピューティングリソースは、影響を受けるインスタンスと同じアベイラビリティゾーンで使用できます。
- このドキュメントで説明されているバックアップ手順は、定期的に実行またはスケジュールされます。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報はCPSに基づいており、すべてのバージョンに適用されます。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 背景説明

このMOPが必要データベース内の既存のデータが破損し、修復/回復できない場合、データベースを再構築する必要があります。

一部の停止により、一部またはすべてのレプリカセットを再構築する必要がありますが、一部またはすべてのレプリカセットの再構築を決定する前に、これらのレプリカセットのすべてのデータが失われる可能性があります。

## トラブルシューティング

### ステップ1: バックアップの検証。

このコマンドは、CPSデータベース設定のバックアップを生成するために使用します。  
`config_br.py -a export --mongo-all /mnt/backup/backup_28092016.tar.gz`

クラスタマネージャの/mnt/backupパスにバックアップが存在するかどうかを確認します

### ステップ2: レプリカセットの再構築。

バックアップが相互検証され、データベース・レプリカ・セットの再作成が決定されると、次の手順が実行されます。

1. /etc/broadhop/mongoConfig.cfgの内容を確認してください
2. これらのコマンドは、Cluster Managerで実行する必要があります。これは、再構築するデータベースによって異なります。

このコマンドは、そのDBに関連するすべてのレプリカセットを作成します。`build_set.sh --<db-name> --create`

**警告:** レプリカセット内のすべてのdbsを作成するコマンドは、データベースをクリーンアップします。レプリカセットのすべての内容が失われます。続行すると、mongoデータベースが削除され、すべてのホスト上の/var/data/sessions.4/SVS1/sessions.\*の下がすべて削除されます。

1つのデータベースに対して特定のレプリカ・セットを再構築する必要がある場合は、次のコマンドを使用します。

`build_set.sh --<db-name> --create --setname <set-name>`

**注:** dbnameに対するsetnameは、pcrfclient01の/etc/broadhop/mongoConfig.cfgから参照する必要があります。

すべてのデータベースのすべてのレプリカセットを再構築する場合は、次のコマンドを使用します。`build_set.sh --all --create`

### ステップ3: バックアップ後のレプリカセットからデータベースをリストアします。

レプリカ・セットのすべてのメンバーがオンラインになり、いずれかのメンバーがプライマリになると、mongoDBをバックアップからリストアできます。次に説明する手順を使用できます。

バックアップからすべてのDBを復元するには、次のコマンドを使用します。config\_br.py  
—action import —mongo-all /mnt/backup/<file-name.tar.gz>

#### **ステップ4：復元を検証します。**

データが復元された後、作業システムを確認するには、次のコマンドを実行します。  
/var/qps/bin/diag/diagnostics.sh